

<貨幣法(1897)による金本位制移行の背景>

- 貨幣法制定(1897)=金本位制(欧米で主流)移行
 - →目的=円為替相場の安定と貿易の振興
- ①日露戦争に備えた軍備拡張をするため 欧米からの軍需品・機械など輸入が増大 but 金銀相場の不安定による銀価格の下落
 - →銀安·金高=円(銀本位制)・ドル(金本位制)の ため、円安(輸出有利)・ドル高(輸入不利)
- ②欧米からの外貨導入(外国資本の輸入)をはかる →外国債を発行して欧米から金を受け取る

財閥の多角化>

三井合名会社(持株会社)

- 1 同族中心に経営
- 2多角的に経営する
 - コンツェルン形態へ

株式を保有する ことで、系列の 傘下企業を支配

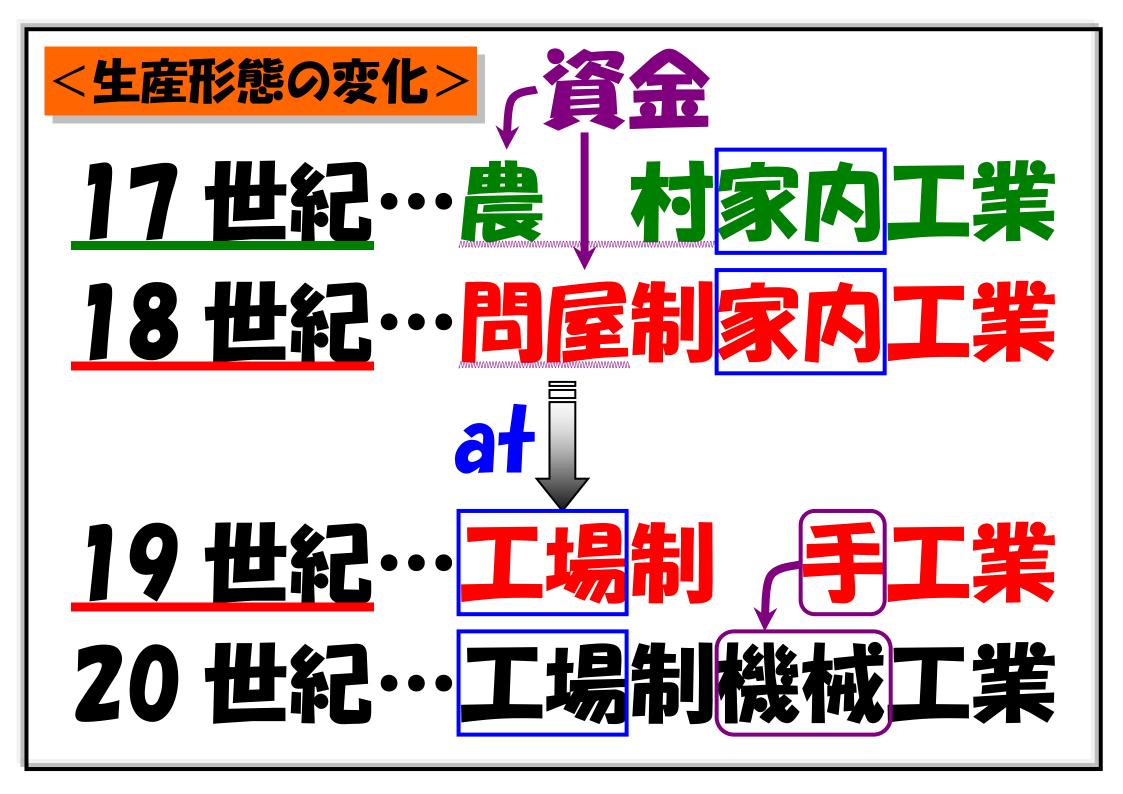
三井銀行

三井物産

三井鉱山

三井生命

王子製紙





(絹糸)

(絹布)







生糸

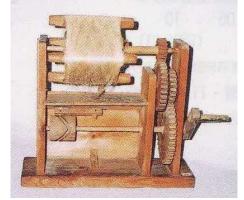


絹織物

養蚕業



絹織物業









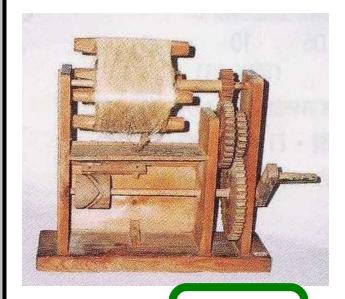


手織機⇨■国産力織機

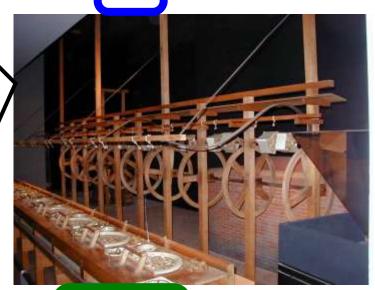
〈製糸業の発達〉

(手工業)

→(機(器)械工業)



農村部の 小工場で 発展



座繰製糸

器械製糸

(水車が動力)

フランスの輸入機械を日本型に改良

〈綿産業〉

(綿布)







綿花

綿糸

綿織物

綿作

(綿)紡績業

綿織物業



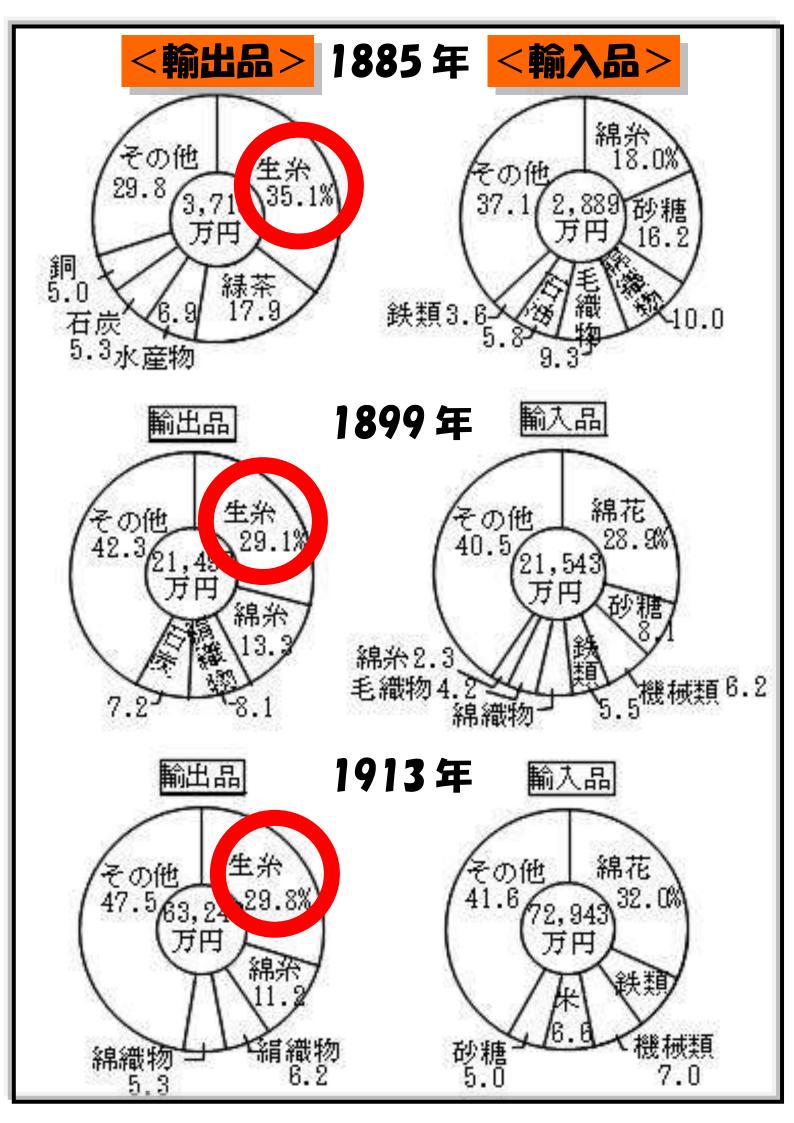


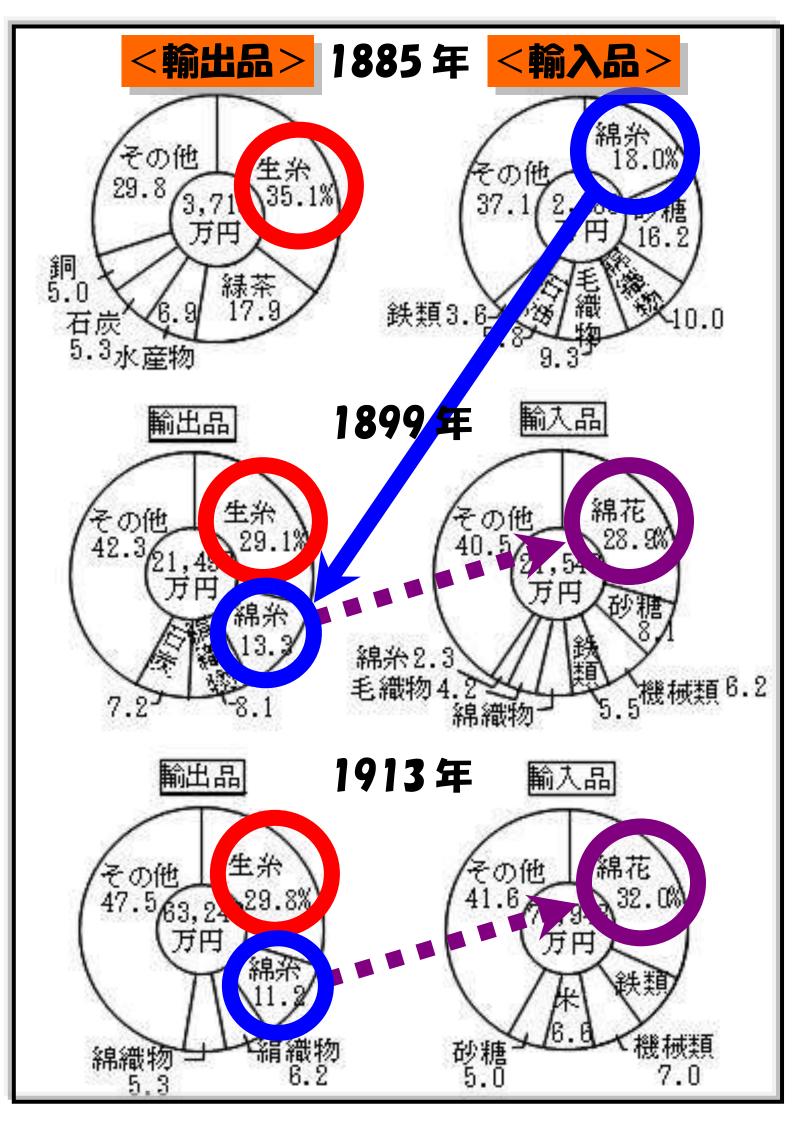


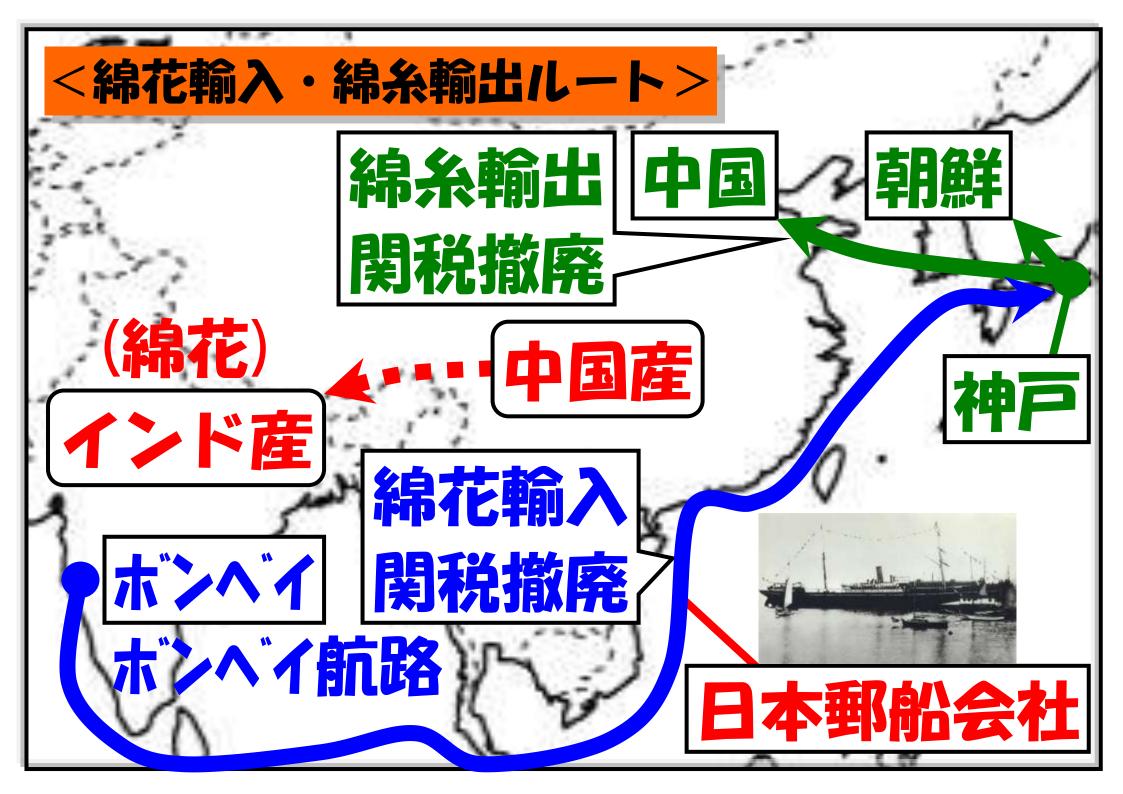




手紡□→ガラ紡⇒紡績機械 手織機→国産力織機







<紡績業の発達>

(手工業)









手紡

ガラ約マシミュー

臥雲辰致

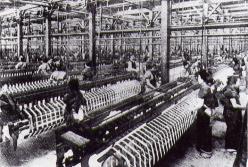
が発明車が動力

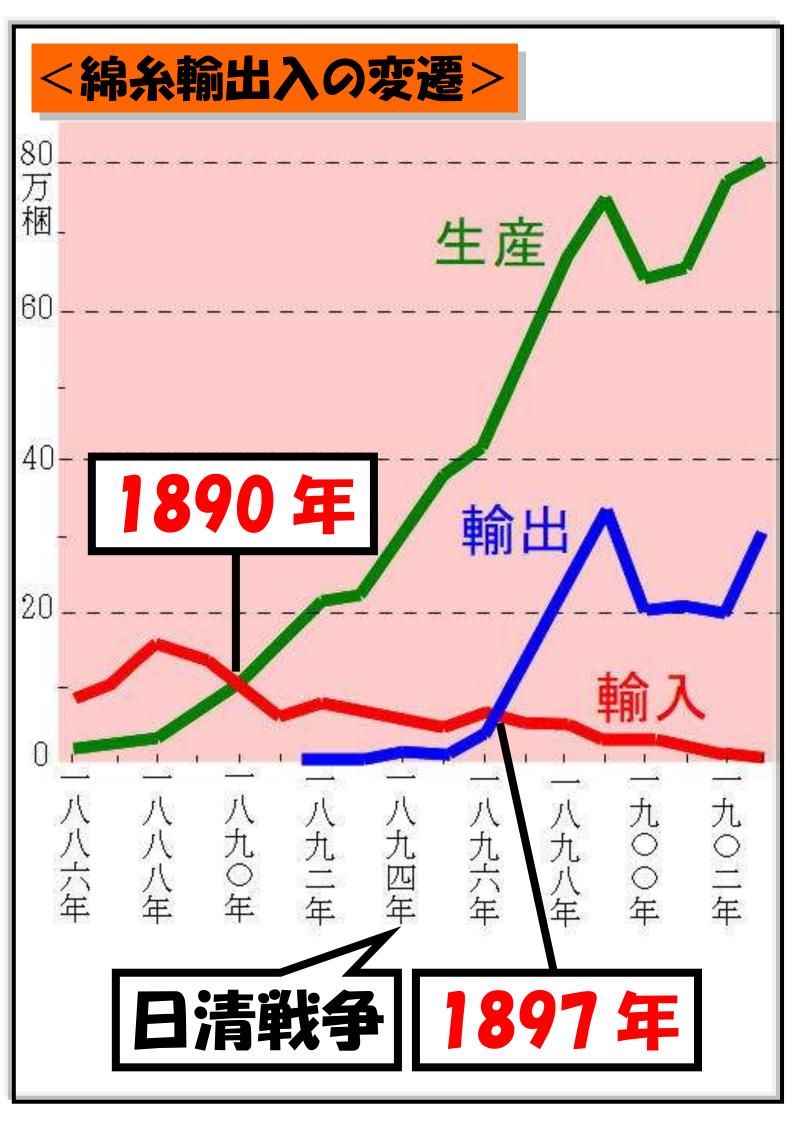
都市部の大工場で

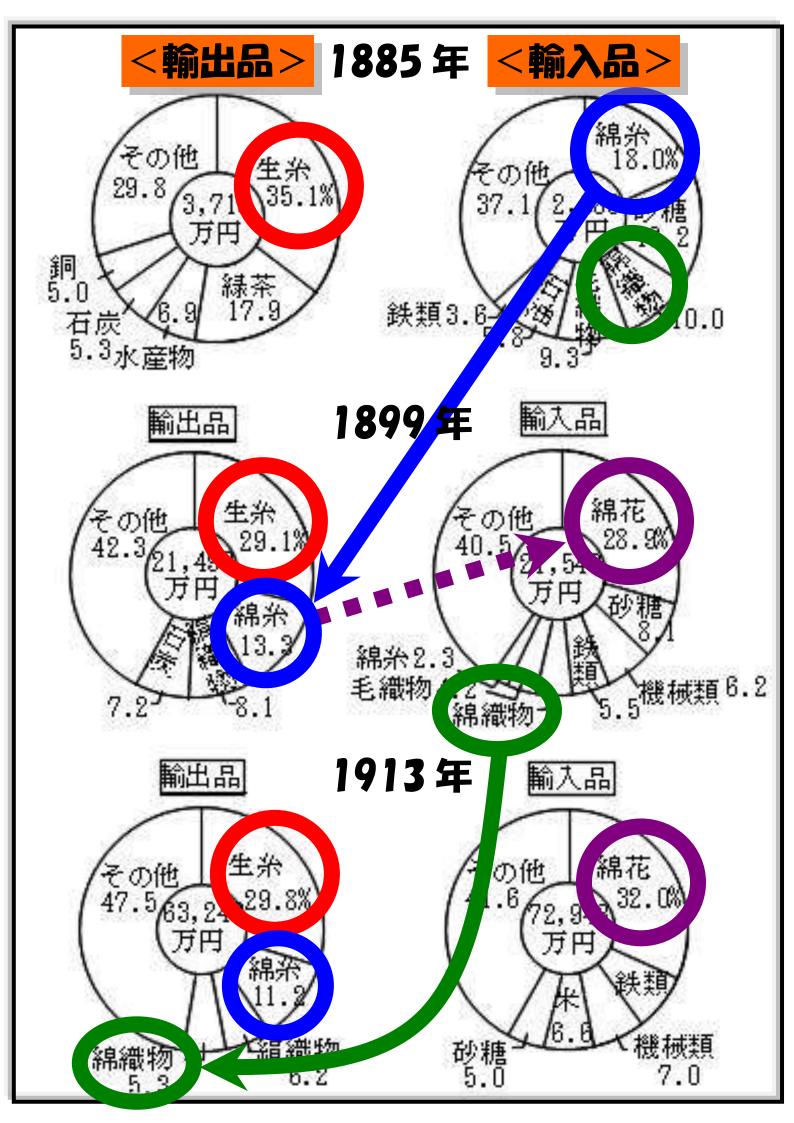
発展



リング紡績機







<綿織物業の発達>

動力による

(手工業)

→(機械工業)



農村部の

小工場に

普及



国產力織機



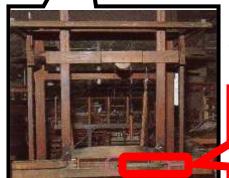
都市部の

飛び抒大工場に

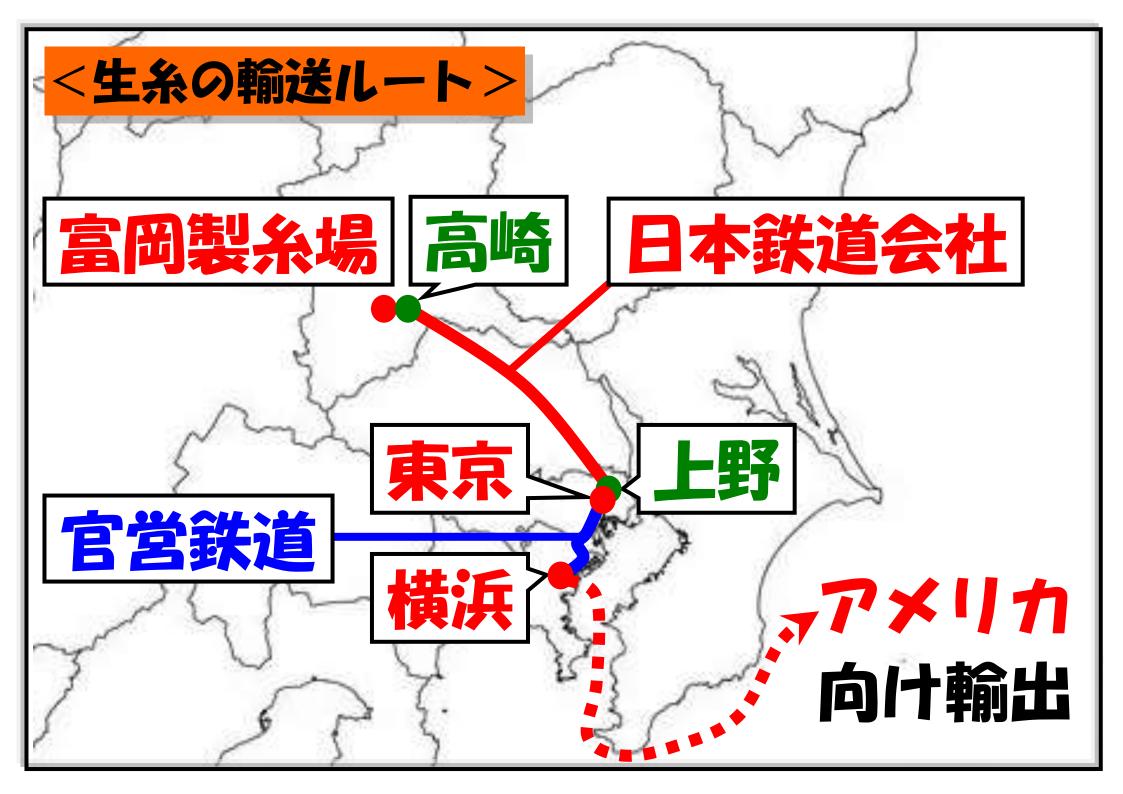
普及

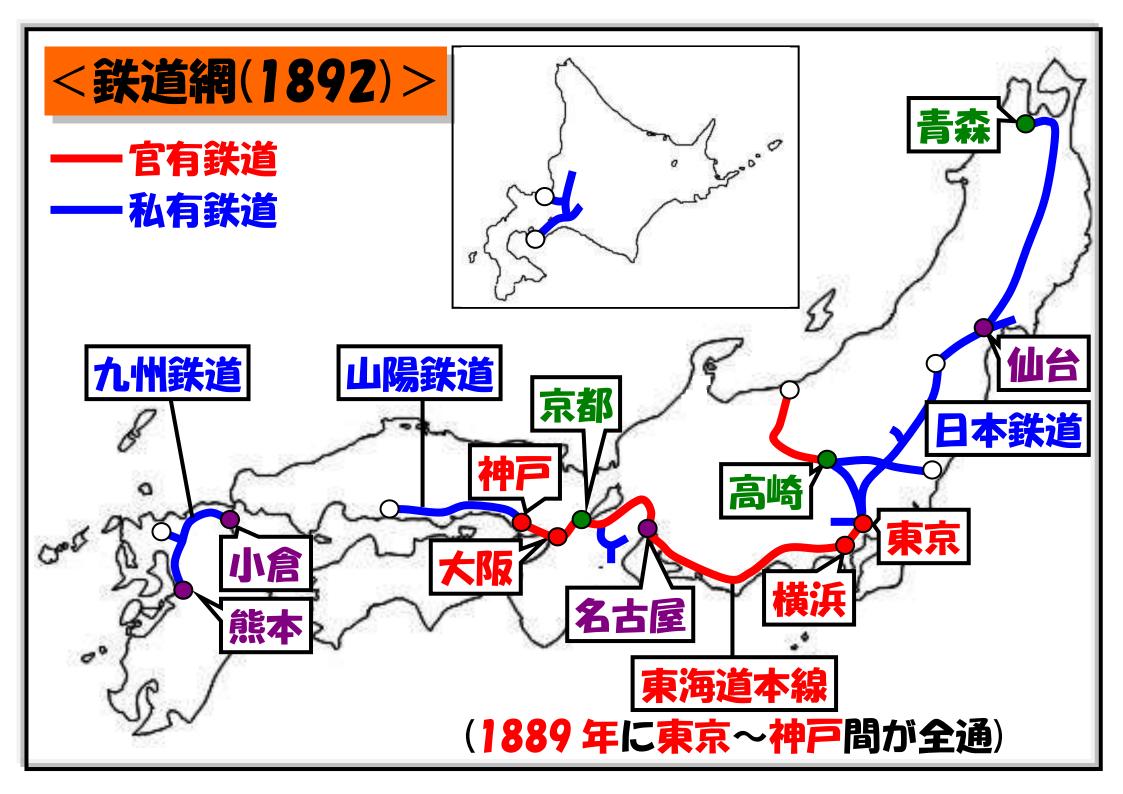


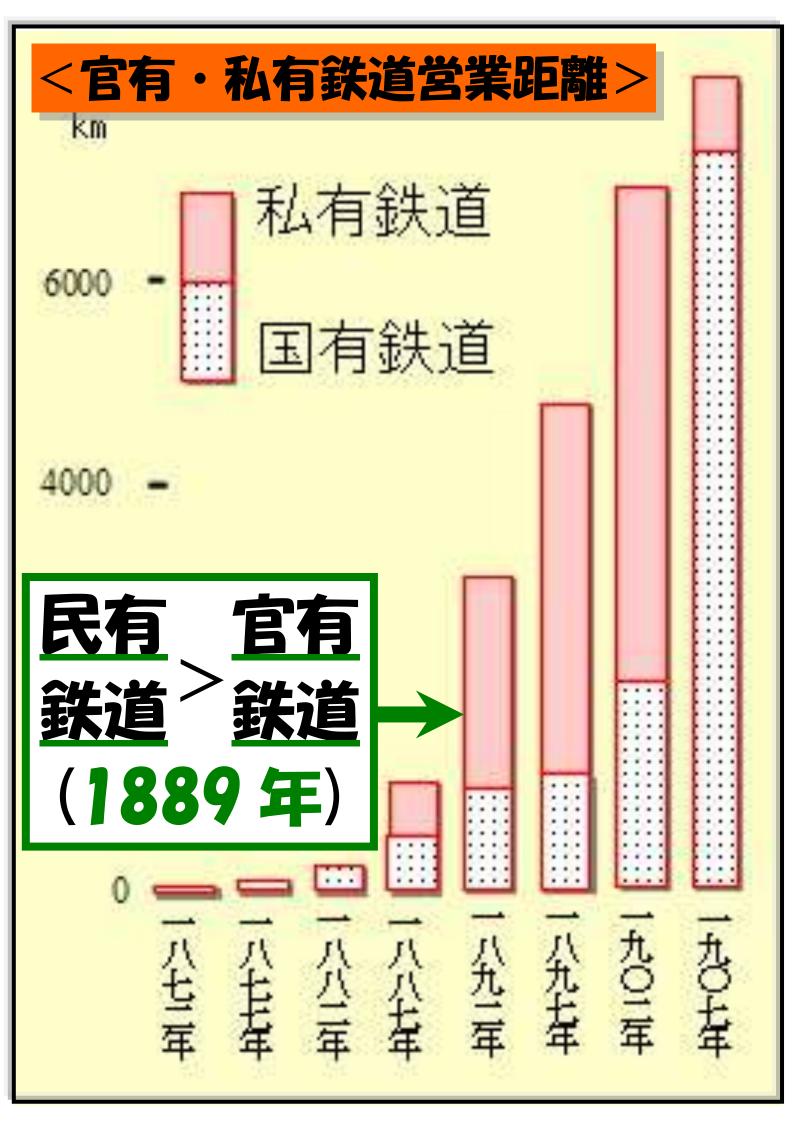
輸入力機機

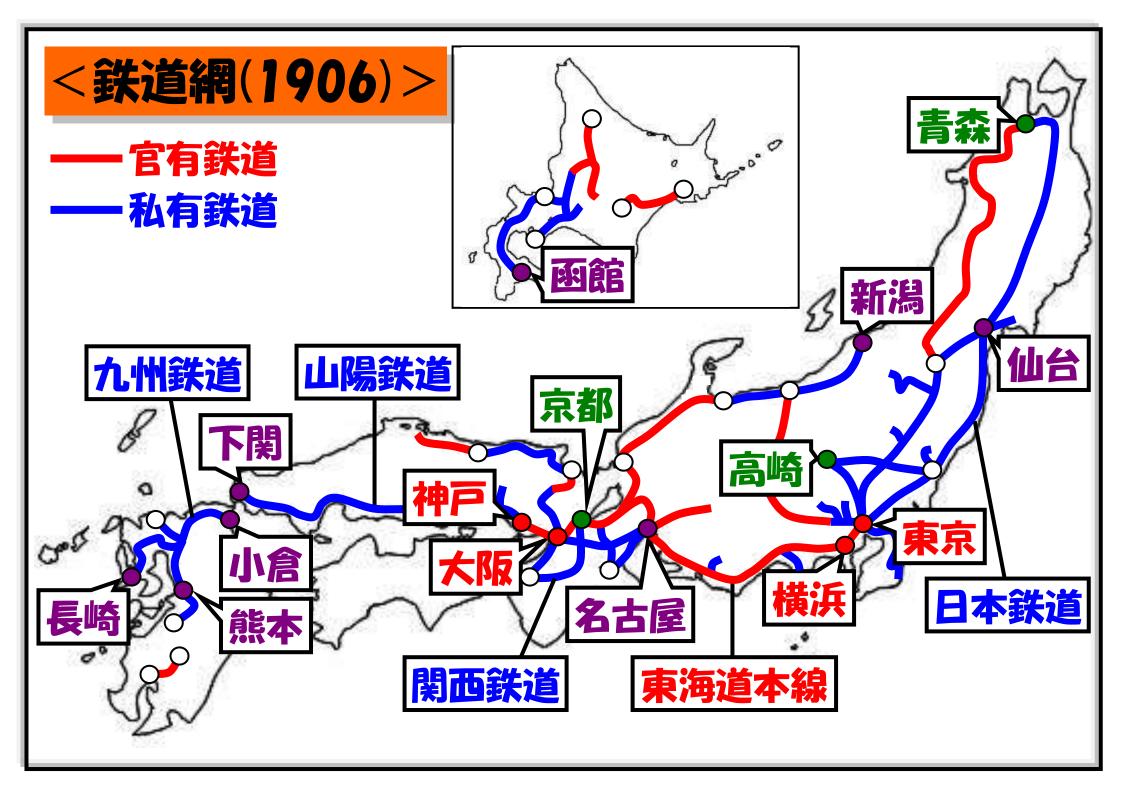


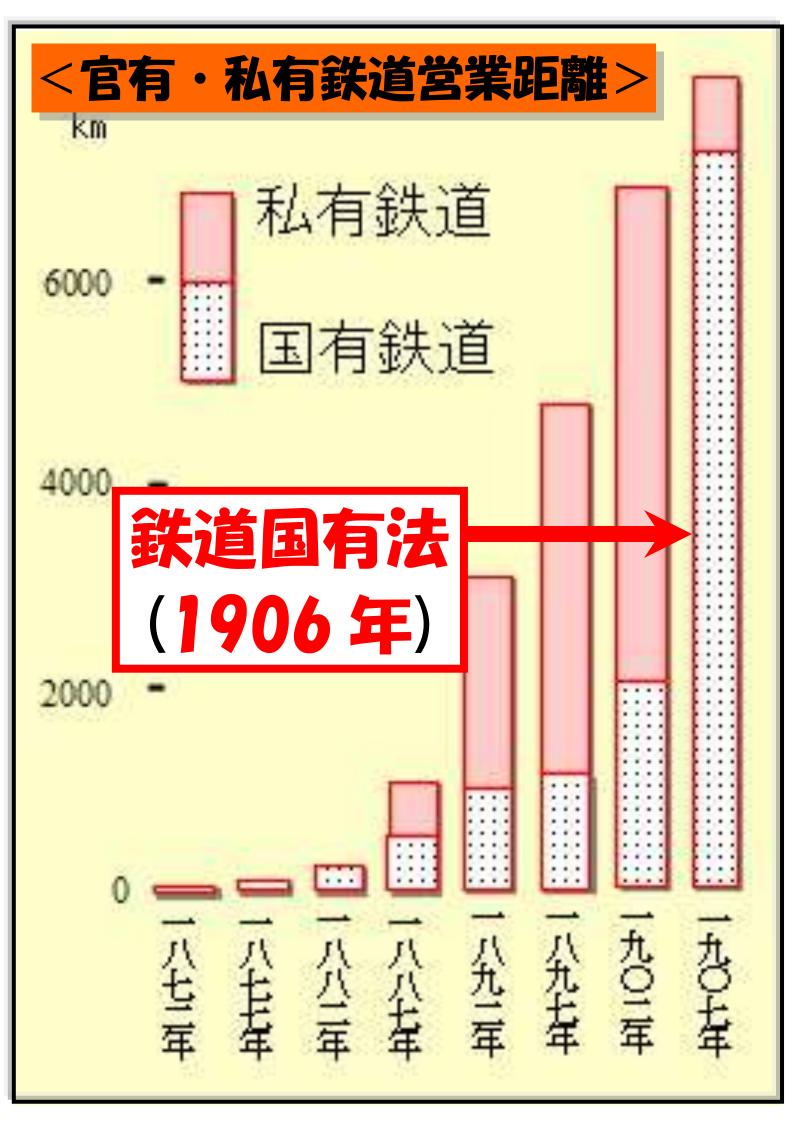
代の行

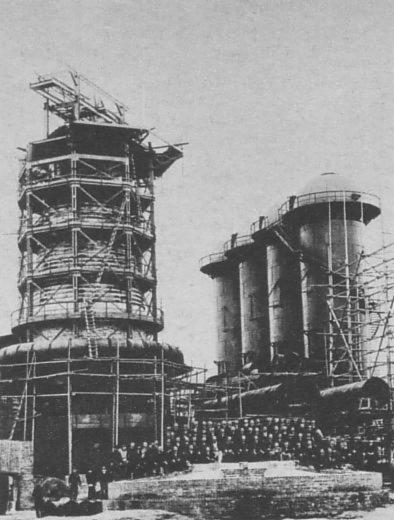














<労働運動>

資本家

労働条件改善 などを要求 2資本家と交渉

一团体交涉権

3交涉決裂時

一争議権

①労働組合を結成(=団結権)

労働者|

| 労働者 |

労働者

<社会民主党(1901)>

社会民主党(1901)の「綱領」

ex. 安部磯雄・片山潜・孝徳秋水・木下尚江・河上清・西川光二郎

「階級制度全廃・財産の分配公平)→社会主義の実行を目的とする」

治安警察法(第8条2項)により禁止

「安寧秩序を保持する必要のため 結社を自由に禁止・解散させる」



<社会民主主義>

|天皇|(国家体制)

内閣(政府)

帝国議会

废给

選挙で社会主義政党に 投票して民主的に実現

社会主義看

<日本社会党(1906)>

日本社会党(1906)の「党則」

ex. 片山潜・田添鉄二・孝徳秋水・堺利彦・西川光二郎ら 200 名

「国法の範囲内において社会主義を主張(のち実行を目的とする)」

→議会政策派・直接行動派の対立

治安警察法により禁止(1907)

「安寧秩序に妨害あり(第8条2項)」

<共産主義>



内閣(政府)

ロシア革命では 共産党一党独裁

革命で国家体制 私有財産制度を 帝国議会

ロシア革命では 共産党一党独裁

の天皇制を打倒 否定 = 共有財産

共產主義者

<共産主義>

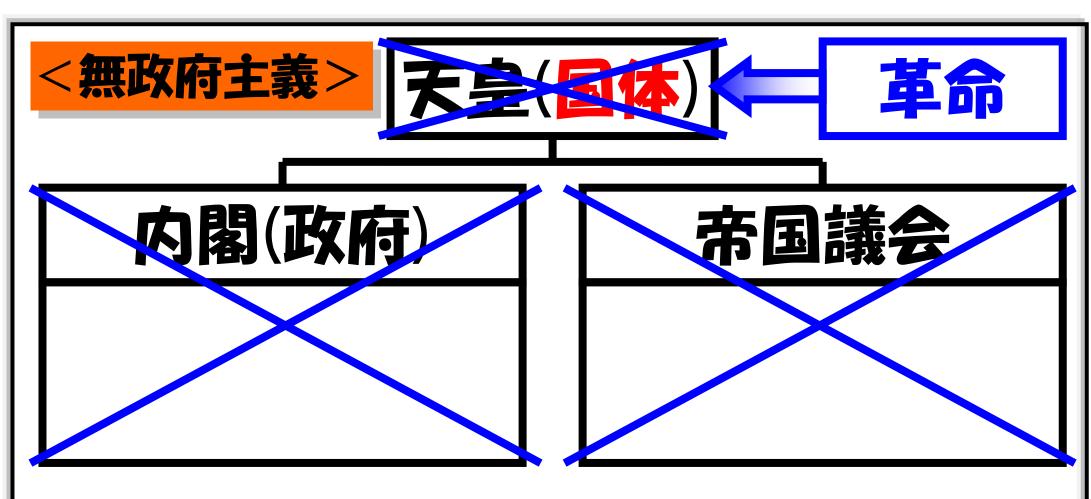
天皇(国体) 革命

内閣(政府)

ロシア革命では 共產光一岩独裁 帝国議会

ロシア革命では 共產第一第四歲

- ①革命で天皇制(国家体制)を打倒
- **山私有財産制度を否定=共有財産**
- (2)共産党政府・議会の一国一党体制)



- ①革命で天皇制(国家体制)を打倒 1 私有財産制度を否定 = 共有財産
- (2)政府・議会などの国家権力を否定)

<議会政策派(論)>

<直接行動派(論)>

議会進出を重視 社会主義政策

労働組合のゼネ ストで直接行動

(社会民主主義系)

(共產主義系)



ホンマは 無政府主 義やけど



片山潜など

幸徳秋水